

平成27年度行政評価シート【個表】

平成 27 年 6 月 25 日

評価対象事業		評価者	文化財課担当課長 吉田 宗一
文財－05 文化財保存・修理助成事業		■ 自治事務	主管課 文化財課
		□ 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	歴史環境	施策の方針 文化財の保存、調査・研究、情報の充実

1 事業の目的

対象	指定文化財の所有者等
意図	指定文化財等の適正な保存管理とその活用を図り、後世に伝えるため
効果	指定文化財等の適正な保存管理とその活用を図る

2 平成26年度に実施した事業の概要

指定文化財等の適正な保存管理とその活用を図るために必要な費用に対し補助を行った。

3 事業費等基礎データ

人口等のデータ	データ区分	27年度当初予算	データ区分	26年度決算	備考
	人 口	177,243人	人 口	177,464人	
	世 帯 数	80,676世帯	世 帯 数	80,368世帯	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	事業の対象者数		事業の対象者数		
運営資源状況	当初予算(千円)	60,515	決算値(千円)	26,073	
	国県支出金	6,890	国県支出金		
	地方債		地方債		
	その他	1,723	その他		
	一般財源	51,902	一般財源	26,073	
	人員配置数	1.5	人員配置数	1.5	
事業経費運営	人件費(千円)	11,718	人件費(千円)	11,481	
	総事業費(千円)	72,233	総事業費(千円)	37,554	
	市民1人当りの経費(円)	408	市民1人当りの経費(円)	212	
	対象者1人当りの経費(円)		対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

平成26年度事業実施にあたっての課題	数百年間引き継がれてきた文化財の状況を的確に把握し、緊急性、重要性に応じて適切な助成を実施する必要がある。要綱に規定した補助金の上限率を下回り、所有者の負担が増えた状況となっている。	
課題解決のために行った平成26年度の取組	優先度の高いものから適切に保存修理事業が行えるよう、文化財の所有者及び国・県と密に連携をとり、事業にあたった。	☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決
未解決の課題 新たな課題	所有者の経済状況によって必要な保存修理が実施できないなどの事態が生じないよう、補助金の交付率をできるだけ上限に近づけるよう、予算措置が必要である。	

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○-1. 負担導入済 ○-2. 適正な受益者負担を導入している
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-1. 既に市民等と協働して適格に事業を実施している
	協働実施済の場合のパートナー	文化財の所有者(社寺等)

事業内容の方向性	☒ a:事業内容を見直す ☐ b:事業内容は現状通りとする ☐ c:事業を休止又は廃止する ☐ d:他事業と統合し、本事業は廃止する	⇒	見直しの内容 種類 ☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他	見直しの内容 現状で補助要綱上の満額を下回っている補助金交付額の増額、保存修理の必要な案件すべてに即応できるよう、予算措置を講じる。
	⇒ 事業へ統合			
予算規模の方向性	☒ A:予算規模を拡大する ☐ B:予算規模は現状維持とする ☐ C:予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	建造物等大規模な保存修理の計画があり、必要な予算を確保する必要がある。	
総評	数百年引き継がれた貴重な文化財を次世代に確実に引き継ぐため、補助金の交付や専門職員の助言などにより、保存修理事業を継続的に支援していく必要がある。			

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)

比較事項	国・県指定文化財数								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	281	21	12	11	31	26	4	12	15
比較事項	市指定文化財件数								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	310	72	24	43	107	83	64	19	22
比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									
当該事業実施に伴う 他市比較に関する 考え方	指定文化財件数は必要な保存修理事業の件数、事業費と比例する。市の人口規模や財政規模ではなく、文化財の件数を指標として、経費を確保する必要がある。								

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容		保存修理件数					単位	件	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由		年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
着実に保存修理を実施することにより、貴重な文化財をより良い状態で未来に引き継ぐことができるため。		目標値	7.0	8.0	9.0	10.0	10.0		10.0		
		実績値	12.0								
		達成率	171.4%								
指標の内容							単位	円	指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由		年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
		目標値									
		実績値									
		達成率									
指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由		年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
		目標値									
		実績値									
		達成率									
指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由		年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
		目標値									
		実績値									
		達成率									
指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由		年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
		目標値									
		実績値									
		達成率									
指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由		年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
		目標値									
		実績値									
		達成率									
指標の内容							単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由		年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
		目標値									
		実績値									
		達成率									
当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方											

● 事業に関する特記事項

☐ 第3期基本計画前期実施計画重点事業	☒ 19節で予算措置している補助金が含まれる事業
--	--